

平成 25 年度さぬきの米を考える研修会資料

平成 26 年 3 月 24 日 (月)

香 川 県 農 業 再 生 協 議 会

平成 25 年度 さぬきの米を考える研修会 次第

1) 開 会

2) あいさつ

3) 県産米の生産振興について

(1) 平成 26 年度水稲生産に向けて

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 大山興央)

(2) 平成 26 年産以降の水田フル活用に向けて

(香川県農業協同組合 営農部 農産課 課長 北岡泰志)

(3) 質疑応答

休 憩

4) 講 演

「コシヒカリ」の評価向上に向けて

(福井県経済農業協同組合連合会

指導販売部 生産対策課 課長 猪坂雅信氏)

5) 質疑応答

6) 閉 会

平成 25 年度 さぬきの米を考える研修会 開催要領

1 目 的

国は、平成 25 年に「攻めの農林水産業」のための農政改革の方向を打ち出し、農林水産業の生産現場の強化を図るための方策が検討されている。その中では、今までの米政策や経営所得安定対策が見直され、担い手を育成し、水田を最大限に活用し食料自給率と自給力の向上を図るため、水稻と麦、大豆、飼料用米・米粉用米等の戦略作物等を始めとする土地利用型作物の生産振興を図ることとしている。

米についても、全国的な米の消費量低迷と生産過剰の中、需要量を維持拡大するため、特に主食用水稻の品質食味の安定化を図ることが重要課題となっている。

そこで、県オリジナル品種「おいでまい」導入を契機とした「売れる米づくり」のための品質向上対策や、今後の県産米評価向上に向けた活動を推進するため、標記研修会を開催する。

- 2 主 催 香川県農業再生協議会
共 催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、「おいでまい」委員会

- 3 日 時 平成 26 年 3 月 24 日 (月) 14:00~16:30
場 所 「高松テルサ」ホール
高松市屋島西町 2366 番地 1 TEL 087-844-3511 (代)

- | 4 研修内容等 | 時 間 |
|--|-------|
| 1) 開 会 | 14:00 |
| 2) あいさつ | |
| 3) 県産米の生産振興について | |
| (1) 平成 26 年度水稻生産に向けて
(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 大山興央) | 14:10 |
| (2) 平成 26 年産以降の水田フル活用に向けて
(香川県農業協同組合 営農部 農産課 課長 北岡泰志) | 14:40 |
| (3) 質疑応答 | 15:00 |
| 休 憩 | 15:10 |
| 4) 講 演
「コシヒカリ」の評価向上に向けて
福井県経済農業協同組合連合会
指導販売部 生産対策課 課長 猪坂雅信氏 | 15:20 |
| 5) 質疑応答 | 16:20 |
| 6) 閉 会 | 16:30 |

5 参集範囲 (約 400 名程度)

米麦生産者・団体、実需者団体、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合、高松地域センター、香川県農業会議、農業委員、香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合

目 次

1 県産米の生産振興について

1) 平成 26 年度水稲生産に向けて 1

2) 平成 26 年産以降の水田フル活用に向けて 9

2 講 演

「コシヒカリ」の評価向上に向けて 13

平成 26 年度水稲生産に向けて

香川県農政水産部
農業生産流通課

1 水稲生産の基本的な考え方

米の需要量は近年のトレンドにおいて毎年 8 万 t 減少している。

国においては、需給バランスの確保と米の価格安定、生産者の経営安定を図ることを目的として、平成 26 年度から経営所得安定対策や米政策の見直しを行ったところである。

今後は、米の産地間競争の激化も懸念されるなど、需要に即した米生産の取り組みである「売れる米づくり」を一層推進していく必要がある。

特に、本県においては、基盤整備率が低く、ほ場が狭隘なうえに、ため池に依存した特殊な水利慣行を有することなどから、担い手への農地集積が進みにくいなど固有の課題を抱えており、さらに、高齢化、農業機械更新時における離農の拡大、作付規模の零細性などを考慮すると、水稲の不作付の拡大が懸念される。

そのため、担い手の育成・確保、農地の集積、基盤整備の促進など生産構造改革の加速化と併せ、水田の有効活用による農家経営の安定に向けて、飼料用米、加工用米、備蓄米など主食用以外の米も含めた水稲の生産拡大による「水張面積」の確保に努めることとする。

2 平成 26 年度の水稲生産を巡る状況と課題

1) 経営所得安定対策、水田フル活用、米政策の主な見直し内容

①米の直接支払交付金の削減

H25: 15,000 円/10a → H26~: 7,500 円/10a → H30~: 0 円/10a

②米価変動補填交付金は 26 年産から廃止 (H26 のみ「円滑化対策」を実施)

③水田活用の直接支払交付金において、飼料用米と加工用米については数量払へ移行 (区分管理の場合)

H25: 80,000 円/10a → H26~: 数量に応じ 55,000~105,000 円/10a

④産地交付金 (旧: 産地資金) の県全体への配分額が増加

H25: 2 億 7 千百万円 → H26: 3 億 7 千 2 百万円 (37% 増)

⑤米政策については、「水田活用の直接支払交付金の充実等を進める中で、定着状況をみながら、5 年後を目途に、行政による生産数量目標の配分に頼らずとも、国が策定する需給見通し等を踏まえつつ生産者や集荷業者・団体が中心となって円滑に需要に応じた生産が行える状況になるよう、行政・生産者団体・現場が一体となって取り組む」こととしたところである。

2) 平成 26 年の生産数量目標について

本県に対して、25 年産より、2,450t 減 (490ha 減) の 71,040t (14,240ha) が提示された。これは、県全体で対前年 3.3% の減に相当するものであり、過去最低水準となったところである。

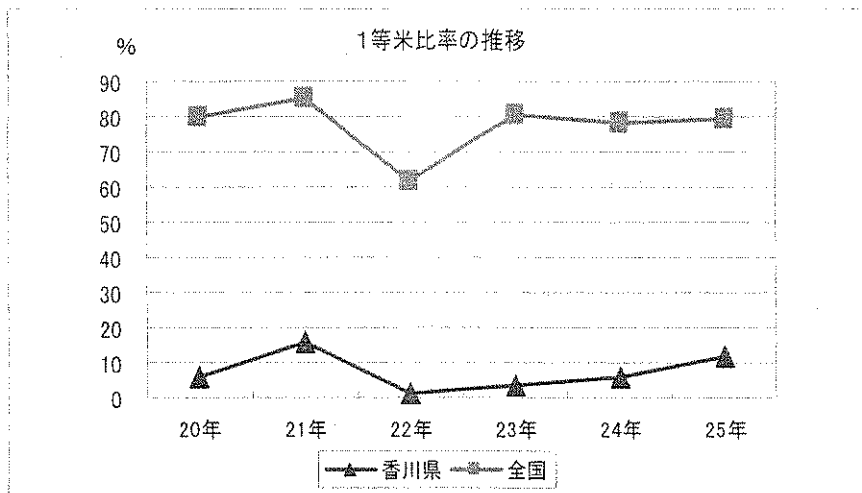
※H16 年産生産数量目標面積換算値 (実作付面積): 15,745ha (15,177ha)

3) 「売れる米づくり」の取組状況と課題

① 1等米比率の向上

水稲の品質は、「1等米比率」で評価されるが、県内で生産されている水稲の1等米比率は全国的に温暖化が進んでいる中でも低位である。その要因として考えられることは、

- ・品質確保のためには非常に厳しい気象条件、
- ・兼業化、高齢化の進展、
- ・厳しい水事情と後作を重視した登熟期の水管理 などがある。



②品質向上のための技術対策

全国的に「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」など高温に弱い品種に作付が集中する傾向にあるが、高温条件下で品質低下を防ぐための栽培内容の代表的な項目は以下のとおりである。

- ・登熟期の高温を避ける遅植えの実施（田植マップに沿った田植）
- ・温暖化対応技術の推進と定着
（施肥改善、適正な水管理、病虫害防除、地力向上対策の実施）
- ・温暖化対応品種「おいでまい」の品質評価を維持しながら生産拡大
- ・市場評価の獲得に向けた良食味米生産体制の確立と産地の育成

参考：日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」評価の推移

品 種	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
コシヒカリ	A'	—	A'	A'	A
ヒノヒカリ	A'	A'	A'	A'	A
はえぬぎ	A'	A'	A'	A'	—
おいでまい	—	—	—	—	特A

③品種別作付の状況と平成26年産作付計画について

品種・年産	平成25年産		平成26年産	
	作付面積	比率	作付面積	比率
ヒノヒカリ	6,385ha	43.4%	6,400ha	43.4%
コシヒカリ	5,635ha	38.3%	5,500ha	37.3%
おいでまい	656ha	4.5%	800ha	5.4%
はえぬき	690ha	4.7%	670ha	4.5%
オオセト	265ha	1.8%	300ha	2.0%
その他うるち	821ha	5.6%	800ha	5.4%
もち類計	260ha	1.8%	260ha	1.8%
水稲計	14,700ha	100.0%	14,730ha	100.0%

参考) 平成26年産水稲の用途別作付計画

単位:ha

主食用	備蓄米	加工用米	飼料用米		米粉用米	WCS	合計
			地域内流通	広域流通			
14,240	186	40	40	178	6	40	14,730

ヒノヒカリ：県外販売割合59%。卸業者には好評であるが、温暖化による品質低下が顕著である。作付は横ばい傾向にあるが、施設荷受や育苗体制が限界に達しており、作期分散可能な品種への切り替えが必要。

コシヒカリ：県内販売割合77%。品質低下のため、需要量の減少が著しい。価格の維持と需要と供給のバランスを維持するため、作付面積の削減が必要。

おいでまい：県内販売割合58%。ヒノヒカリの温暖化による品質低下回避のために導入した。産地、栽培者を限定した栽培のため、品質、食味が安定していることと、日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」で「特A」評価を受けたことから、実需は拡大傾向にある。今後もブランド化を進めながら、需要動向に応じた計画的な生産拡大に取り組む必要がある。

はえぬき：県内販売割合83%。地元スーパーでの一極集中的販売要素が強い。施設の円滑な運営上は重要な位置付けであり作付面積の維持が必要。

オオセト：県外販売割合64%。灘と伏見の蔵元から安定供給が求められ、固定需要があったが、酒の販売状況が不振であることから、加工用米の取組を開始し、需要に応えられるような作付計画の見直しが必要となっている。

3 農政改革を踏まえた生産振興の加速化（水稲関係）について

1) 多様な水稲生産拡大推進事業（平成 26～28 年度）

飼料用米など主食用以外の水稲の生産拡大や低コスト化を進めるため、地域の実情に応じた米生産体制の定着に向け、飼料用米等の実証活動や実需者とのマッチング、流通体制の構築などの取組みを支援する。

- ・事業実施主体：地域農業再生協議会、県（5,000 千円）
- ・地域農業再生協議会への補助率：10/10
- ・県予算額：3,750 千円

2) 試験研究の加速化（平成 26～28 年度）

① 水田有効活用研究開発事業（県農業試験場：1,800 千円）

飼料用米や主食用多収性品種の栽培技術の確立を図るため、多収性品種・系統の適応性等の調査研究を実施する。

② 飼料用米活用試験研究事業（県畜産試験場：1,000 千円）

飼料用米について、家畜への有効活用を検討するため、とうもろこしの代替として飼料用米の給与による肉質等に及ぼす影響について調査研究を行う。

3) かがわの水田有効活用条件整備事業（平成 26～28 年度）

認定農業者等に対して、水稲（新規需要米など含む）、麦、大豆、飼料作物など土地利用型作物の生産拡大や低コスト化・高品質化に必要な農業機械の整備を支援する。

- ・事業実施主体：認定農業者、認定就農者等
- ・補助率：30%以内
- ・県予算額：①米麦主体型 23,000 千円
②園芸作物との複合経営型 17,000 千円

4) 「おいでまい」を核とした「売れる米づくり」促進事業（平成 25～27 年度）

① 「おいでまい」生産・販売拡大対策

「おいでまい」のブランド化に向けて、品質向上に必要となるライスグレーダーの網目の幅を拡大するのに要する経費の一部を助成する。

- ・事業実施主体：「おいでまい」栽培者（市町）
- ・補助額：定額 10 千円以内
- ・県予算額：3,000 千円

② 「おいでまい」消費拡大推進事業（県：8,500 千円）

県内外での認知度向上と販路拡大を図るため、各種メディアを活用した総合的な PR 事業を展開するとともに、学校給食への導入促進を支援する。

③ おいしい米づくり技術確立事業（県：1,000 千円）

県産米の全国的な市場評価向上のため、平成25年産で獲得した、日本穀物検定協会「米の食味ランキング」における「特A」評価を引き続き獲得できるよう、食味の向上に特化した栽培技術の確立を図る。

5) 産地交付金の活用（平成 26 年度：別添一覧参照）

- ① 主食用以外の水稻の作付け推進を図るため、新規需要米について、担い手や多収性専用品種への助成を新設するとともに加工用米の取組に対する助成を新設。
- ② 集落営農などの担い手の麦、大豆の生産拡大の取組を強化するため、単価を引き上げるとともに、実需者から増産要望の高い県オリジナル小麦品種「さぬきの夢 2009」に対する助成を新設。
- ③ 主要園芸品目（野菜）については、水田を有効に活用し、香川県の強みを活かした生産拡大を図るため、作付拡大に対する助成を新設。
- ④ 地域の特色を活かした産地づくりを強化するため、地域特産物助成を充実。
- ⑤ そば、なたねについては、戦略作物助成からの移行に伴い助成を新設。

別紙)平成26年度経営所得安定対策における産地交付金の活用方法(案)

		国からの配分額計		271,000千円
		371,587千円	26年度交付単価 (10a当たり)	25年度交付単価 (10a当たり)
活用方法	主な内容	26年度交付単価 (10a当たり)	26年度交付単価 (10a当たり)	25年度交付単価 (10a当たり)
① 備蓄米生産助成	農業者の水稻の作付意向に配慮し、備蓄米の生産に対して米の直接支払交付金相当額を助成	7,500円	7,500円	15,000円
	農業者の水稻の作付意向に配慮し、不作付地の解消や農地の有効活用の観点から、新規需要米の生産に対して加算	12,000円	12,000円	12,000円
	② 新規需要米生産加算	2,000円	2,000円	—
③ 加工用米生産加算	これまでの担い手に対する施策を踏まえ、担い手(集落営農、認定農業者、認定就農者)が取り組んだ場合に加算	2,000円	2,000円	—
	上記の要件で多収性専用品種(WCS用稲を除く)に取り組んだ場合	2,000円	2,000円	—
	③ 加工用米生産加算	12,000円	12,000円	—
④-1) 麦担い手集積加算	これまでの担い手に対する施策を踏まえ、担い手(集落営農、認定農業者、認定就農者)が集積(自作地を含む)した麦作付面積に対して加算	3,500円	3,500円	3,000円
	法人格を有している場合	2,000円	2,000円	2,000円
	上記の要件に「さぬきの夢2009」作付の場合	2,000円	2,000円	—
④-2) 麦作拡大加算	実需者ニーズに即した効果的な生産拡大に向け、新規に表を作付拡大した面積に対して加算	11,000円	11,000円	11,000円
	これまでの担い手に対する施策を踏まえ、担い手(集落営農、認定農業者、認定就農者)が集積(自作地を含む)した大豆作付面積に対して加算	15,000円	15,000円	3,000円
	④-3) 大豆担い手集積加算	15,000円	15,000円	3,000円

多様な水稻の生産拡大

麦・大豆の生産振興

活用方法	主な内容	26年度交付単価 (10a当たり)	25年度交付単価 (10a当たり)	
園芸作物などの生産振興	<p>⑤-1) 主要園芸品目助成 (野菜)</p> <p>主要な園芸品目(産出額の上位9品目の野菜)の産地の活性化に向け、その作付面積に対して助成</p> <p>⑤-2) 主要園芸品目拡大助成 (野菜)</p> <p>上記の主要な園芸品目のうち、露地栽培主体の5品目(レタス、ブロッコリー、青ネギ、ニンニク、タマネギ)の作付拡大を図るため、その増反面積に対して助成</p> <p>⑥ 地域特産物助成</p> <p>地域の実情に即した多種多様な地域特産物の安定生産を図ることとして設定</p> <p>⑦ そば、なたねに対する助成</p> <p>戦略作物助成から移行</p>	レタス、ブロッコリー	15,000円	15,000円
		アスパラガス		
		青ネギ	13,000円	13,000円
		イチゴ、キュウリ		
		トマト	10,000円	10,000円
		ニンニク	8,000円	8,000円
		タマネギ	5,000円	5,000円
		⑤-2) 主要園芸品目拡大助成 (野菜)	⑤ 10,000円	—
		⑥ 地域特産物助成	地域毎に設定 配分額: 40,282	地域毎に設定 配分額: 29,399
		⑦ そば、なたねに対する助成	⑦ 20,000円	—
	二毛作	⑦ 15,000円	—	
合計	—	—	—	

※交付実績が、国からの配分額を上回る場合は、単価調整により減額する場合があります。

平成 26 年産以降の水田フル活用に向けて

香川県農業協同組合
営農部農産課

1. 25年産米の生産・販売状況

1. 生産状況

(1) 平成25年産米の主食用米作付面積（酒造用米、もち米含む）（単位：ha）

区分	25年産			24年産			前年対比	
	配分面積 ①	作付実績 ②	達成率 ③=②/①	配分面積 ④	作付実績 ⑤	達成率 ⑥=⑤/④	配分面積 ⑦=①-④	作付実績 ⑧=②-⑤
県計	14,730	14,494	98.4	14,520	14,454	99.5	+210	+40

※24年産は34haの市町間調整実施並びに飼料用米からのUターン（推定160ha）

(2) 平成25年産米に係る主食用米以外の水田活用の状況（単位：ha）

	備蓄米①	飼料米②	米粉米③	WCS④	加工米⑤	合計①～⑤
25年産	105	28	12	37	-	182
24年産	0	115	18	33	-	166
25-24	+105	▲87	▲6	+4	-	+16

2. 販売状況

(1) 全国の主食用米等の需給見通し（推計）

表 平成25/26年の主食用米等の需給見通し（単位：万トン）

	主食用米等
平成25年6月末民間在庫量	A 224
平成25年産主食用米等生産量	B 818
平成25/26年主食用米等供給量計	C=A+B 1,042
平成25/26年主食用米等需要量	D 787
平成26年6月末民間在庫量	E=C-D 255

注：「25/26年」とは、平成25年7月から平成26年6月までの1年間。

参照：米に関するマンスリーレポート（農林水産省）より

(2) 平成25年産米の販売状況（平成26年3月17日基準）（単位：トン、%）

25年産 販売計画 ①	25年産 販売実績 ②	24年産 同期実績 ③	計画対比 ②÷①	前年対比 ②÷③
30,356	10,822	12,106	35.7	89.4

II. 平成26年産米の取組みについて

1. 生産計画

(1) 主食用米作付面積の推移

(単位：ha)

26年産		25年産		配分比較	作付比較
配分面積 ①	作付計画 ②	配分面積 ③	作付実績 ④	26-25 ①-③	26-25 ②-④
14,240	14,240	14,730	14,494	▲490	▲254

(2) 26年産米に係る水田活用計画

(単位：ha)

	備蓄米①	飼料米②	米粉米③	WCS④	加工米⑤	合計①～⑤
26年産	186	218	6	40	40	490
25年産	105	28	12	37	0	182
24年産	0	115	18	33	0	166
26-25	+80	+162	▲7	+3	+40	+278
25-24	+105	▲87	▲6	+4	0	+16

2. 平成26年産の水田活用米穀の取組みについて

(1) 水田活用米穀とは

加工用米・飼料用米・米粉用米・政府備蓄米のことを言います。

加工用米：清酒・加工米飯や味噌・米菓等の原料米として供給されています。

飼料用米：配合飼料等の飼料原料として供給されています。

米粉用米：小麦粉代替の米穀粉等の原料米として供給されています。

政府備蓄米：大不作の際などに備えて国が在庫として保有しています。

(2) 目的と内容

平成26年産からスタートさせる新たな農政改革では、経営所得安定対策と米政策の見直しがなされ、これまで需要が減り続けている主食用米に助成してきたものから、麦、大豆や飼料用米など水田活用米穀などへの助成を厚くする方向へ転換されました。

また、米の生産調整においては、生産者・団体などが中心となり需要に応じた生産を行えるよう生産数量目標の配分は5年後を目途に廃止を判断するとされています。

その鍵を握るのが飼料用米などの水田活用米穀です。同じ水稲でも主食用米と用途が異なるだけで、生産調整の影響を受けずに水田を水田のまま活用でき、増産できる作物として着目されています。

そのためには、

○相対的な生産者手取り水準を確保するとともに、安心して現行の水田面積の耕作を維持できる仕組みとする。

○各品目別の需要者に対し、安定供給を継続することにより、需要を確実に確保し、継続的な生産環境を整える。

以上のことが必要です。

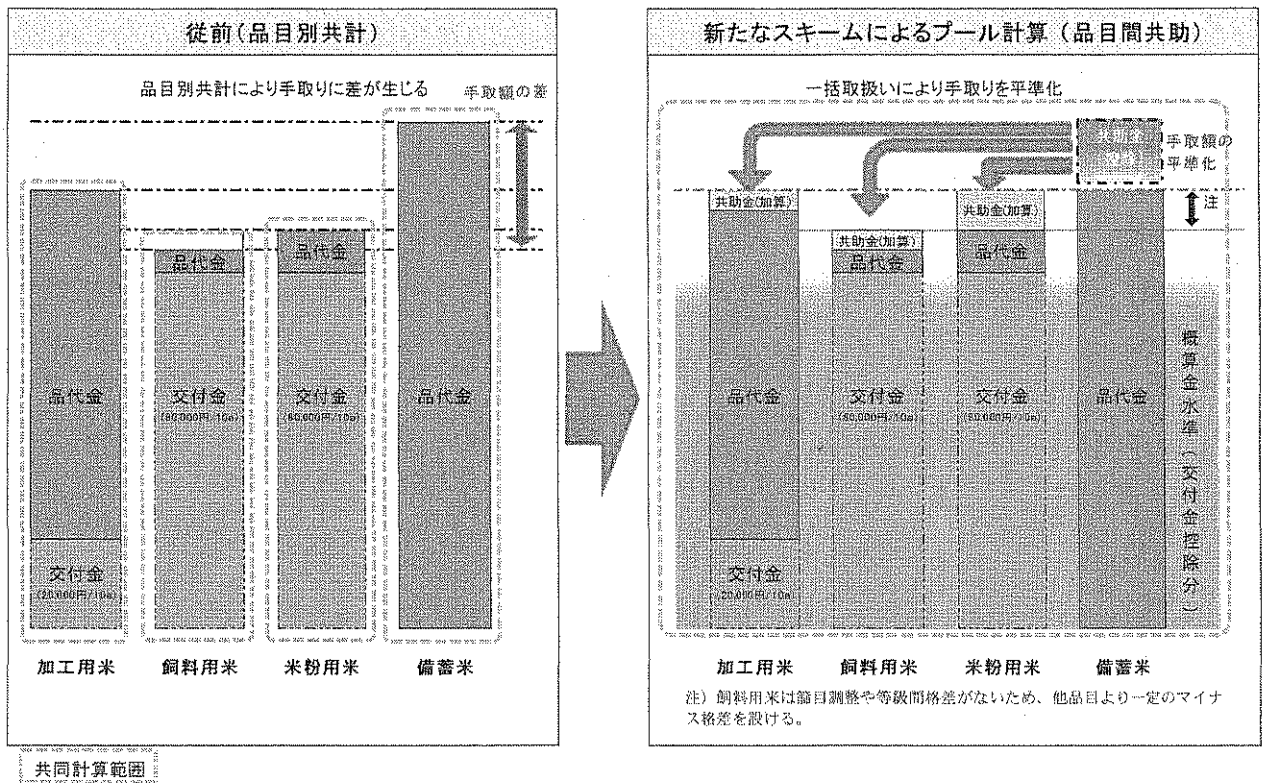
このことを実現するためには

ア. それぞれの品目間での手取りを平準化することにより、水田活用米穀の中で農家組合員はどの品目を生産しても手取りは、ほぼ同じとなる仕組みとします。

イ. そのうえで、加工用米・米粉用米・飼料用米・備蓄米について、地域性や作付け品種などの取り組み環境を踏まえ、あらかじめ品目を選定させていただく場合があります。

ウ. 手取り平準化はそれぞれの品目ごとに設定されている水田活用の直接支払交付金や産地交付金部分も含めた最終的な手取りが、ほぼ一律となるよう、品目間での品代金プール計算を実施します。

【プール計算イメージ】



(3) 水田活用米穀の取扱い

・加工用米

酒造メーカーからの強い要望のある「オオセト」・「さぬきよいまい」について、基本的に生産数量目標の削減部分を対象に取り組むこととします。

・米粉用米

需要が停滞傾向であるため、需要量に見合った生産を基本とします。

・政府備蓄米

播種前入札制度による取組みであり、本県においては、平成26年産の県別優先枠が530トン(106ha)と限定的であるため、取組地域は前年産を基本とします。

・飼料用米

平成26年産に係る生産数量目標が2,450トン削減されたことから、上記、3つの品目でカバーできない部分は飼料用米で取組むこととします。

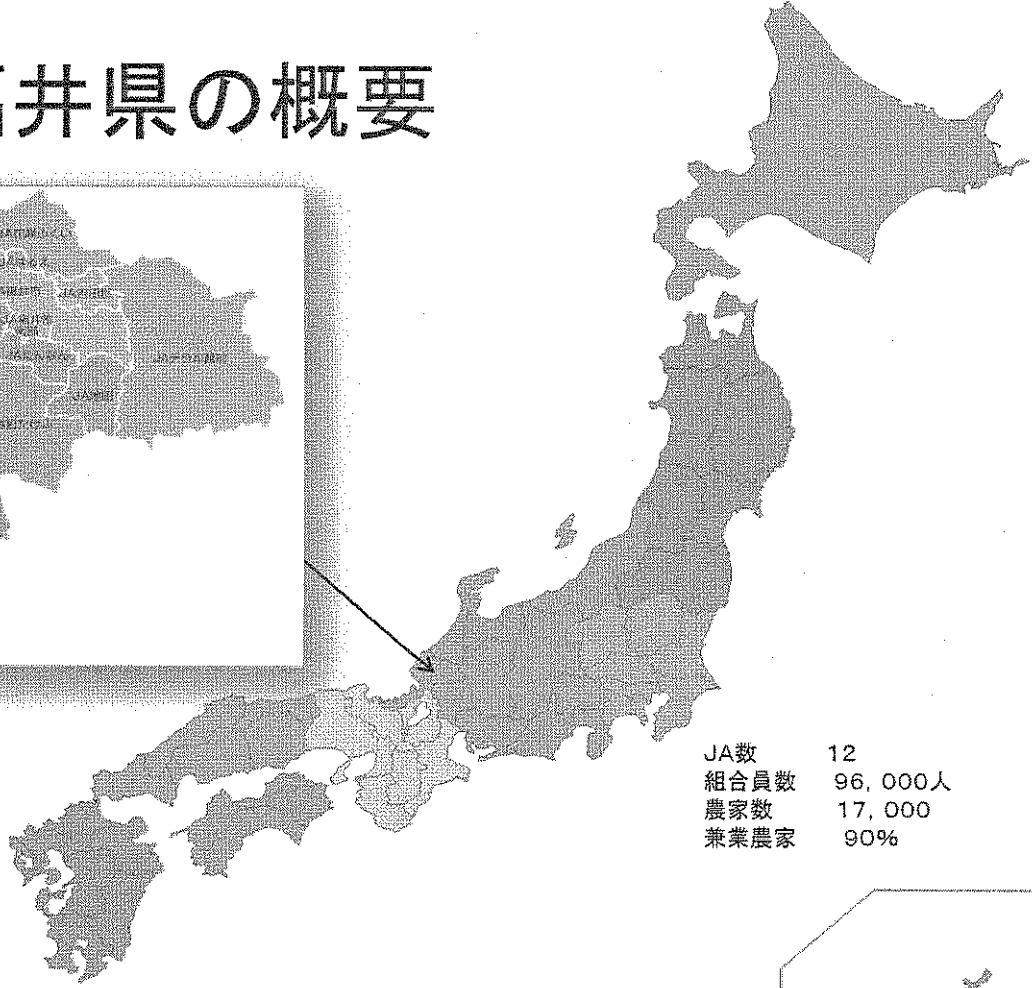
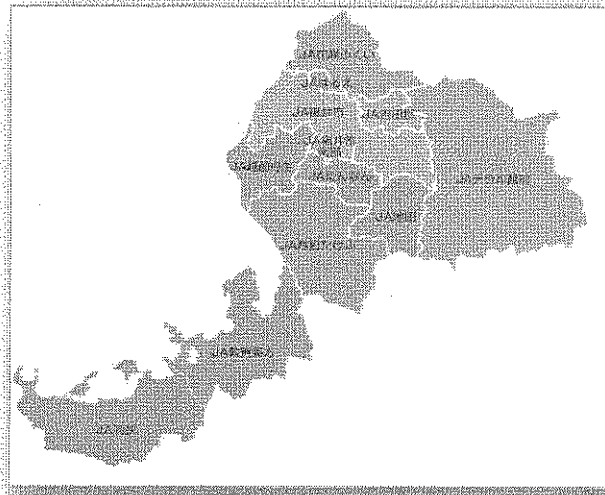
以上

「コシヒカリ」の評価向上に向けて



おいしいお米をお届けします。
福井県経済連

福井県の概要



JA数	12
組合員数	96,000人
農家数	17,000
兼業農家	90%

福井県の農産物生産高

順位	品目	産出額 (億円)	割合 (%)
	合計	458	100.0
1	米	318	69.4
2	鶏卵	22	4.8
3	生乳	9	2.0
4	さといも	7	1.5
5	肉用牛	7	1.5
6	ねぎ	7	1.5
7	すいか	5	1.1
8	うめ	5	1.1
9	だいこん	5	1.1
10	ほうれんそう	5	1.1

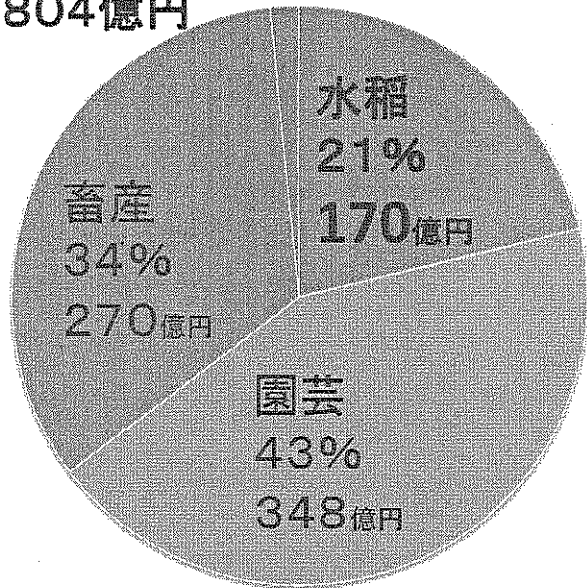
順位	品目	産出額 (億円)	割合 (%)
11	ばれいしょ	4	0.9
12	トマト	4	0.9
13	そば	3	0.7
14	なす	3	0.7
15	きく	3	0.7
16	日本なし	3	0.7
17	メロン	3	0.7
18	豚	3	0.7
19	かんしょ	3	0.7
20	きゅうり	3	0.7

農林水産省「平成23年生産農業所得統計」

香川県と福井県との比較

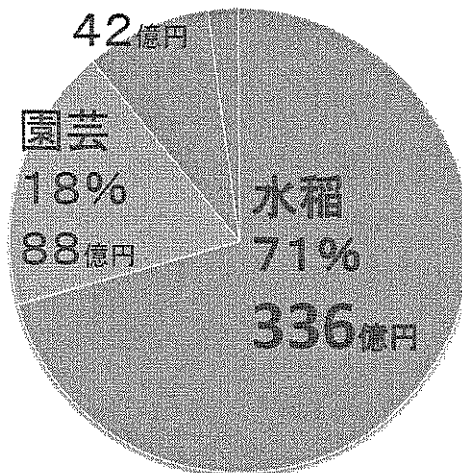
品目別農産物生産高

香川県
804億円



畜産
9%

福井県
477億円



- 水稲
- 園芸
- 畜産
- その他

農林水産省:平成24年農業産出額 統計より

コシヒカリのふるさと

- 1956年(昭和31年)、福井県農業試験場にて誕生
- 1972年(昭和47年)、福井県の奨励品種となる
- 全国の作付け面積の約37%



福井県農業試験場内にあるコシヒカリの石碑

福井県産コシヒカリの評価

福井のコシヒカ리를復活できるのは
“あなた”です！

表1 各産地の食味ランキング

産地	品種名	H16産	H17産	H18産	H19産	H20産	ランク:基準米に対し…
北海道(上川)	きらら397	A	A'	A	A	A	特A : 特に良好なもの A : 良好なもの
青森(中広)	つがるロマン	A	A	A	A	A	A' : 概ね同等のもの B : やや劣るもの
秋田(県北)	あきたこまち	特A	特A	特A	特A	特A	B' : 劣るもの
宮城(県北)	ひとめぼれ	特A	特A	特A	特A	特A	
福島(会津)	コシヒカリ	特A	特A	特A	特A	特A	
新潟(魚沼)	コシヒカリ	特A	特A	特A	特A	特A	基準米は複数産地コシヒカリのブレンド米を使用
富山(西・東)	コシヒカリ	A	A	A	A	A	
京都(丹後)	コシヒカリ	特A	A	A	特A	特A	B、B'にランク付けされた産地はなくA'は事実上の最低評価
福井(県北)	コシヒカリ	A	A	A	A	A	
高知(県中)	コシヒカリ	A'	A	A'	A'	A'	
宮崎(沿岸)	コシヒカリ	A	A'	A'	A'	A	

福井コシヒカリ復活プロジェクト

福井県水田農業レベルアップ委員会

◎本委員会

◎技術・普及推進部会

- └ 水稻部会
- └ 麦部会

構成員

県 [農林水産部
農業試験場、農林総合事務所

JA [経済連、中央会
県内12JA

近年の主な取り組み

I. コシヒカリの「5月半ばの適期田植え」

(H21～)

II. 1.9mm網目交換による大粒化

(H22～)

III. コシヒカリの区分集荷・販売への取組

(H22～)

I. コシヒカリ「5月半ばの適期田植え」

コシヒカリの栽培時期を「適期」へ変えよう！

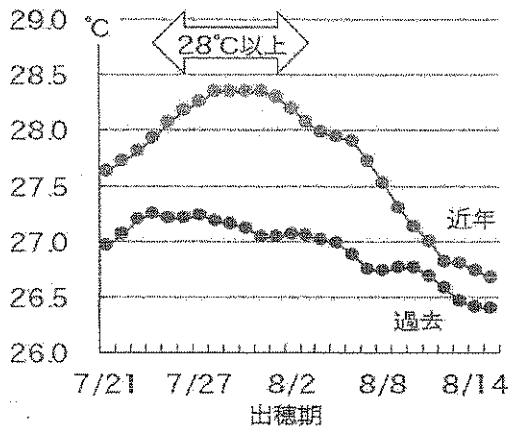


図1 出穂期から15日間の平均気温の違い
 現在：H11～H20の平均
 過去：S40～S49の平均

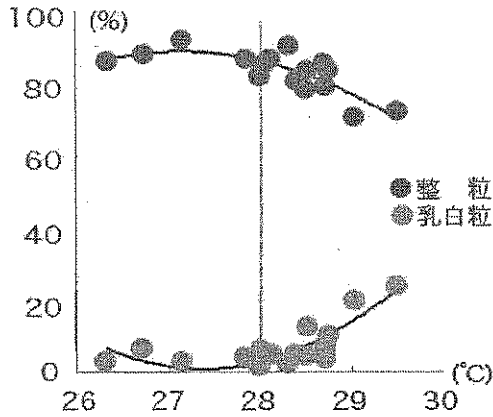


図2 出穂期から15日間の平均気温と
 完全粒・乳白粒の割合
 (H11～14・農業試験場)

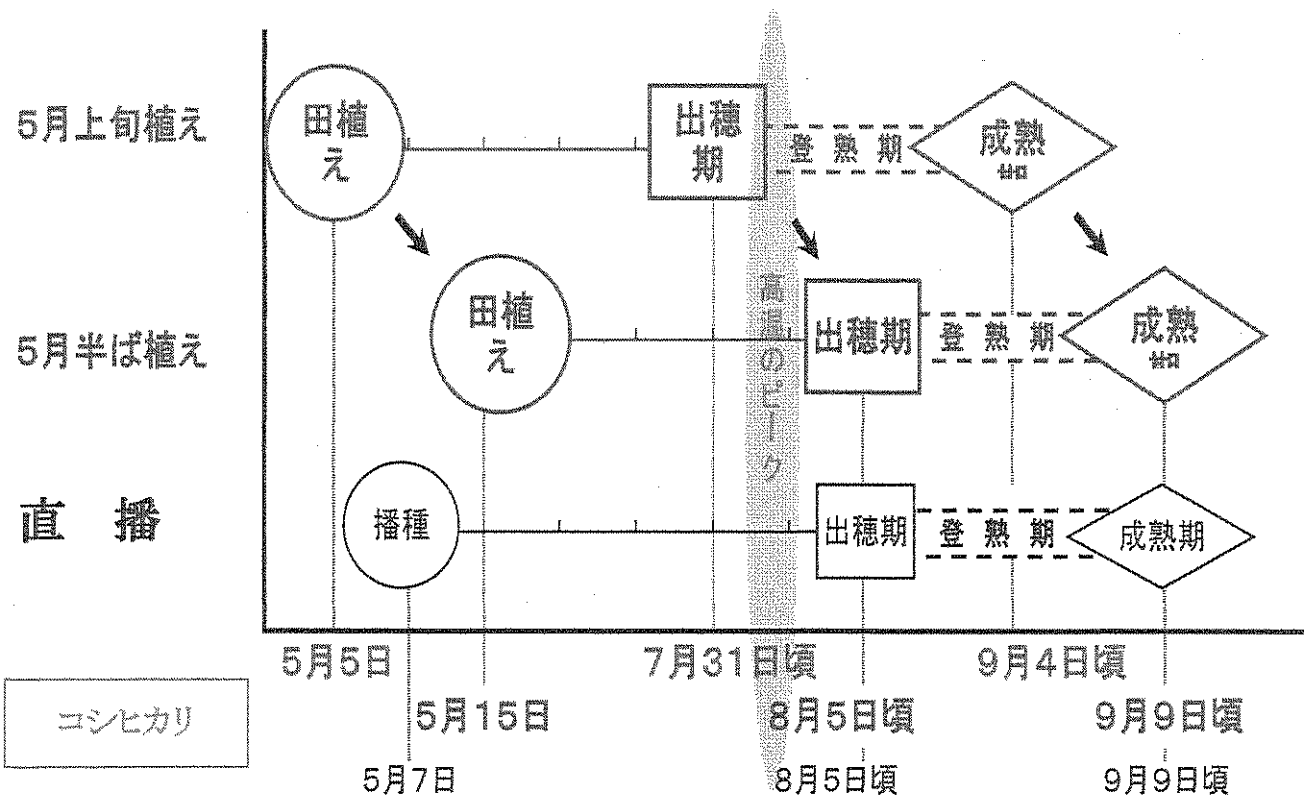
コシヒカリの品質と気温

近年、コシヒカリの成熟期の温度は高く、出穂期から15日間の平均気温が28℃を越えています(図1)。コシヒカリは、出穂期から15日間の気温の平均が28℃を超えると乳白粒が増加し、整粒が減少します(図2)。

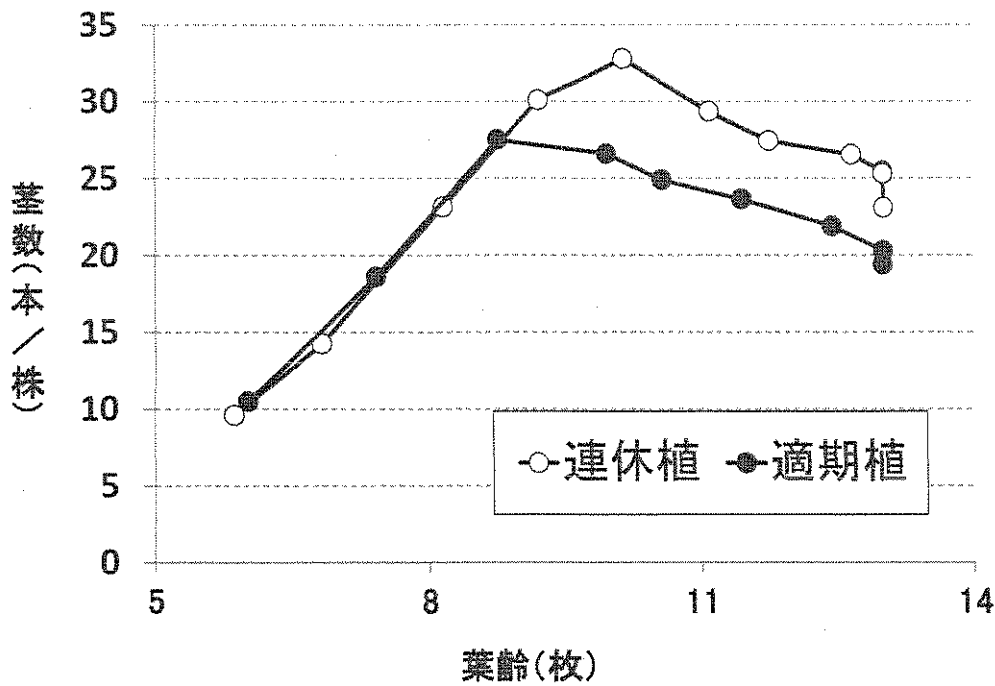
コシヒカリは出穂を遅らせる

コシヒカリを5月の連休に移植すると、農場の高温の時期に出穂します。5月半ば以降に移植し、出穂期を遅くすることで、高温を回避しましょう。直播栽培も同様の効果があります(図3)。

生育ステージの比較

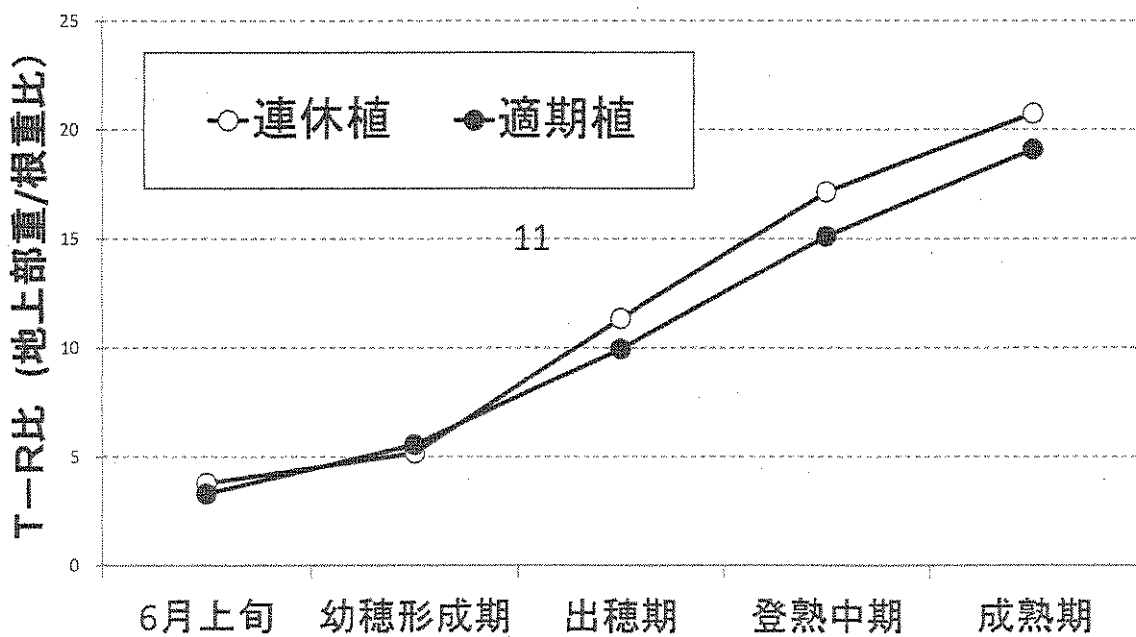


適期田植えの生育(1)



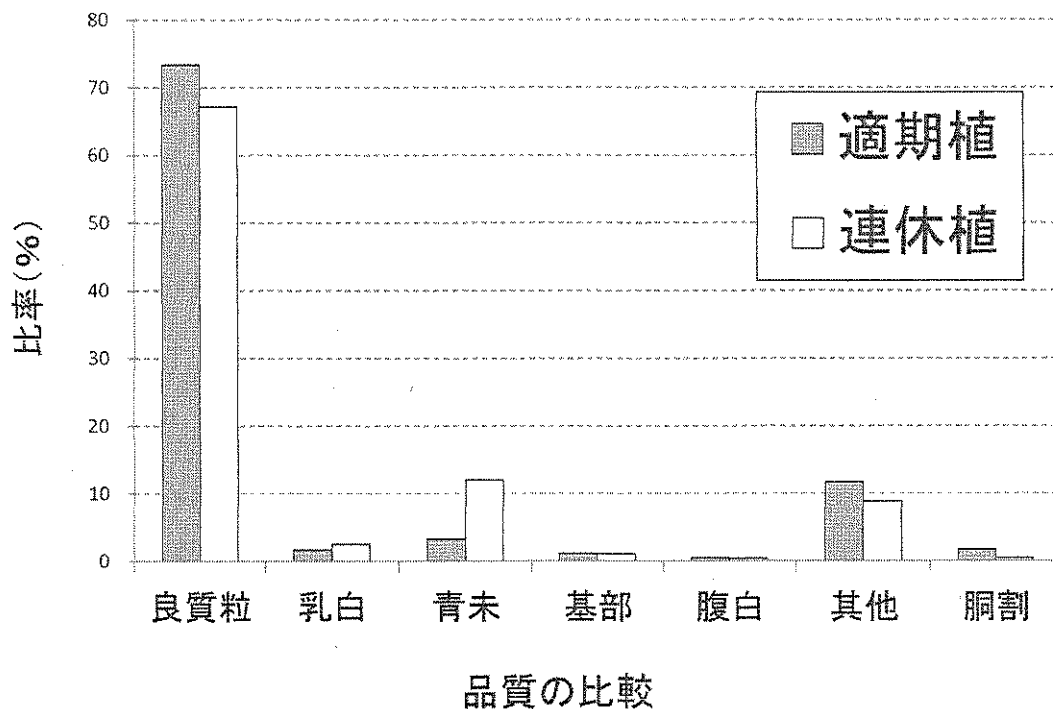
茎数の比較の推移

適期田植えの生育(2)



生育期間中のT-R比の推移

適期田植えの品質



適期田植えの推進活動



適期田植え・直播の実施実績

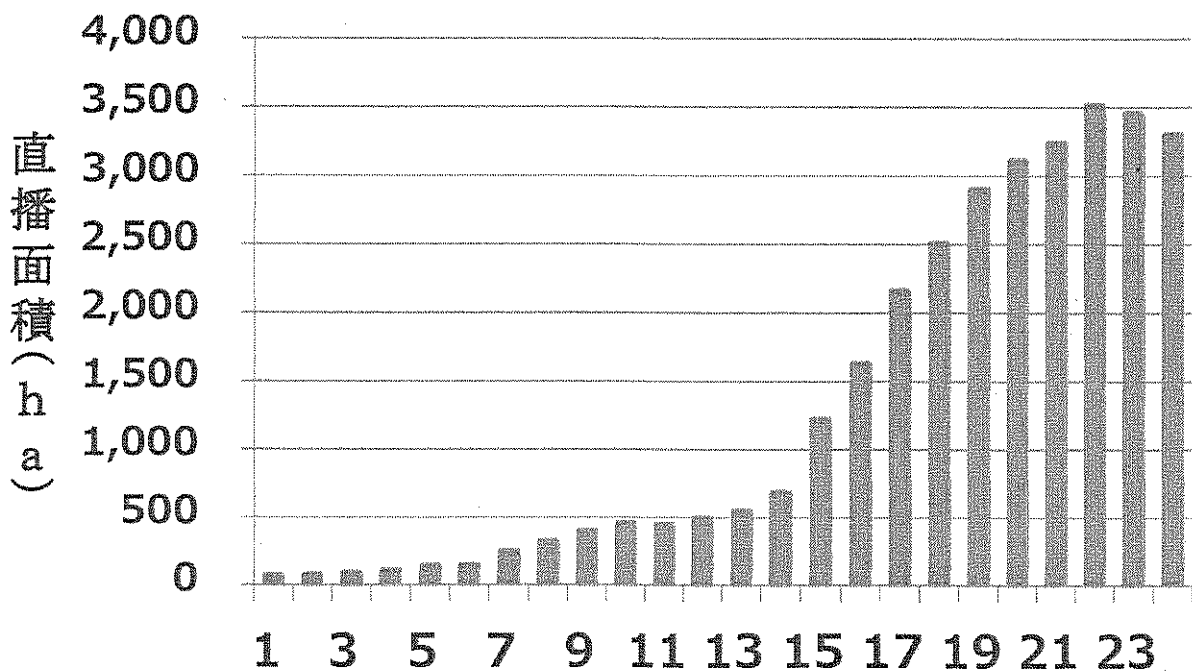
コシヒカリの5月15日以降の田植え、直播実施状況



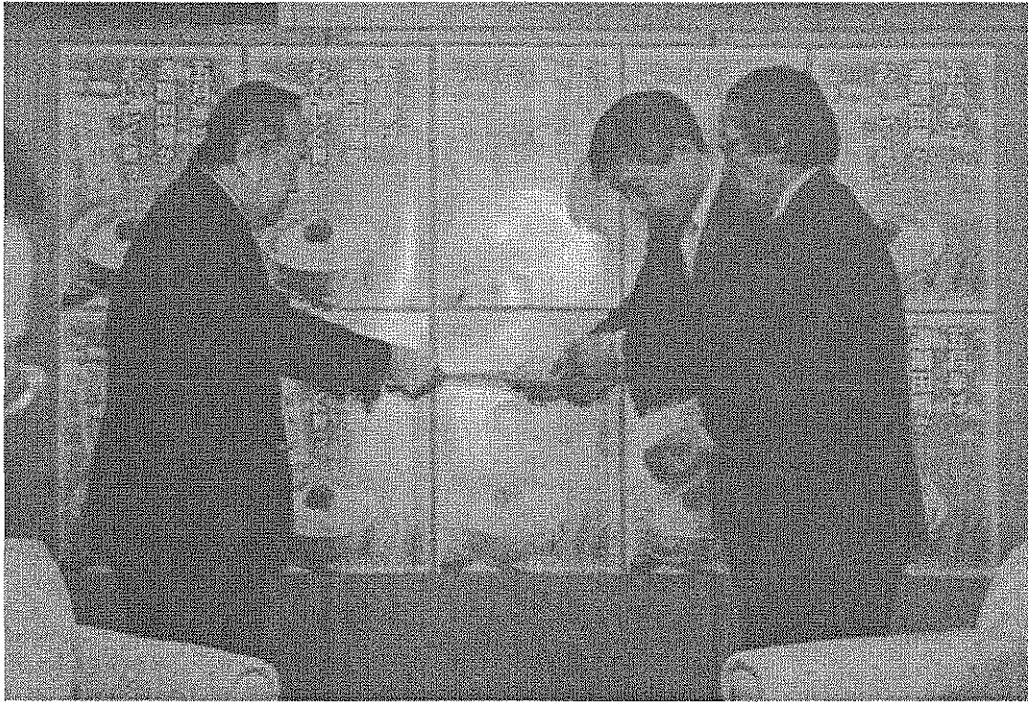
直播面積の推移

福井県 水稻全体

H22 3,511ha

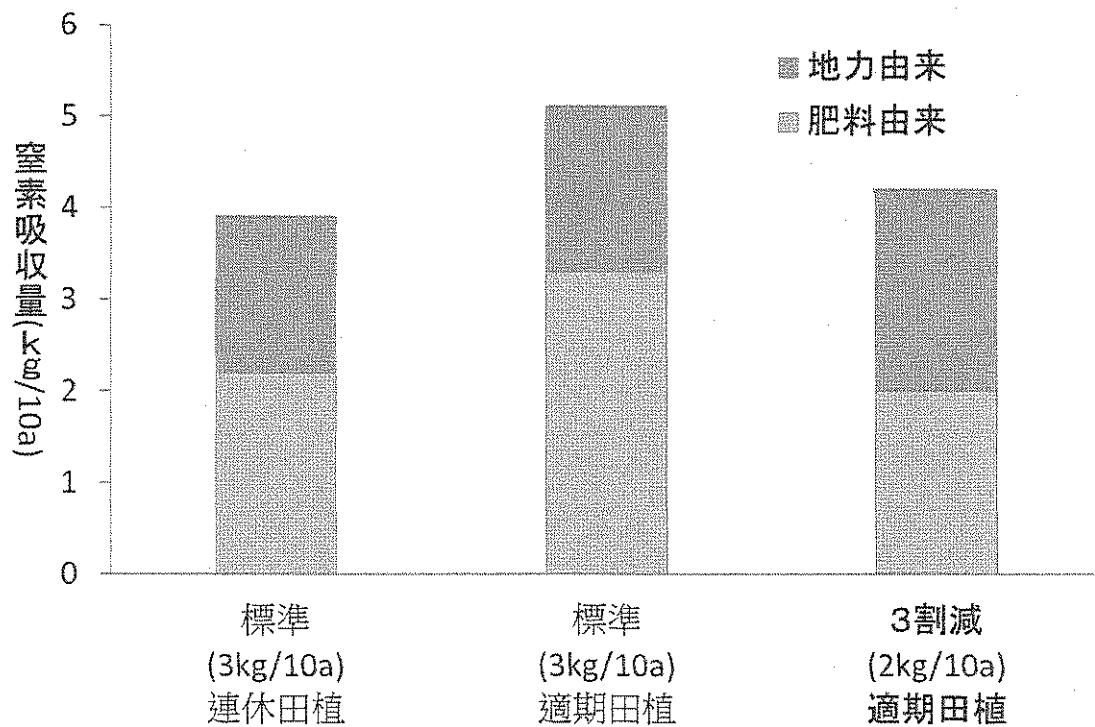


田植え休暇協力要請



商工会議所等関係団体への田植え休暇要請

適期田植用基肥一括肥料の設計



田植時期および施肥窒素量と幼穂形成期の窒素吸収量の関係

適期田植え用肥料の開発

平成22年度

コシヒカリ移植用
基肥一括肥料を商品化



平成23年度
肥料試験展示補設置銘柄数

品種	移植	直播	分施	合計
コシヒカリ	2	1	1	4

肥料開度試験の様子



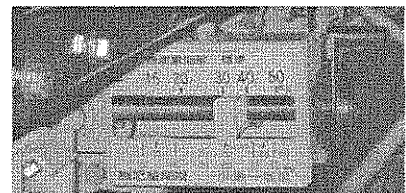
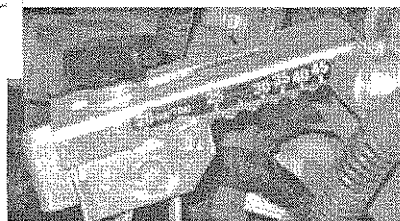
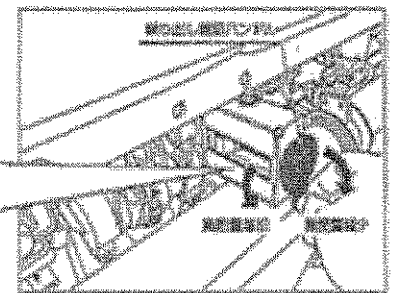
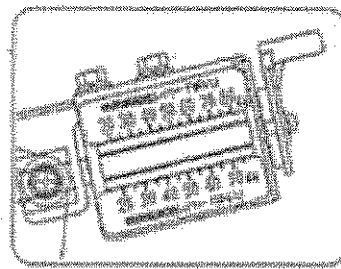
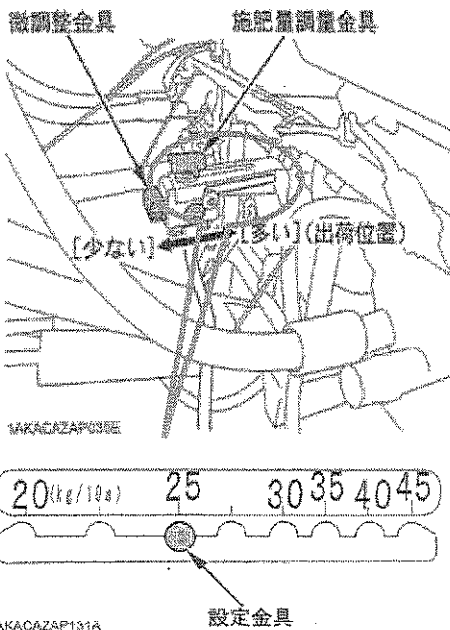
肥料開度表

農機メーカー	品 種	肥 料 名	比 重	開 度					施肥量目安 (kg/10a)	
				30	40	50	60	70		
クボタ	移植用	ハナエチゼン エコハナふぶき	0.72	23	30	38	46	53	40~50	
		コンヒカリ エコLPコシ大名	0.76	22	29	37	44	52	25~40	
		イクヒカリ エコイク小町	0.75	25	33	41	50	58	40~50	
		あきさかり エコあきまっさかり	0.74	25	33	41	49	57	40~50	
	直播用	ハナエチゼン じかまき君エコハナふぶき	0.75	24	32	40	48	56	40~50	
		コンヒカリ エコLP直播仙人	0.72	23	30	38	45	53	30~35	
		あきさかり エコあき直播 極み	0.76	24	32	40	49	57	45~50	
	分施用	全品種	エコ元肥	0.83	27	36	45	54	63	25~45
	キセキ	移植用	ハナエチゼン エコハナふぶき	0.72	23	29	40	47	56	40~50
			コンヒカリ エコLPコシ大名	0.76	25	31	43	/	/	25~40
イクヒカリ エコイク小町			0.75	24	30	41	49	57	40~50	
あきさかり エコあきまっさかり			0.74	23	30	42	49	57	40~50	
直播用		ハナエチゼン じかまき君エコハナふぶき	0.75	24	30	41	48	57	40~50	
		コンヒカリ エコLP直播仙人	0.72	23	30	40	/	/	30~35	
		あきさかり エコあき直播 極み	0.76	25	32	44	50	58	45~50	
分施用		全品種	エコ元肥	0.83	25	33	46	/	/	25~45

開度調整の方法

クボタ田植機

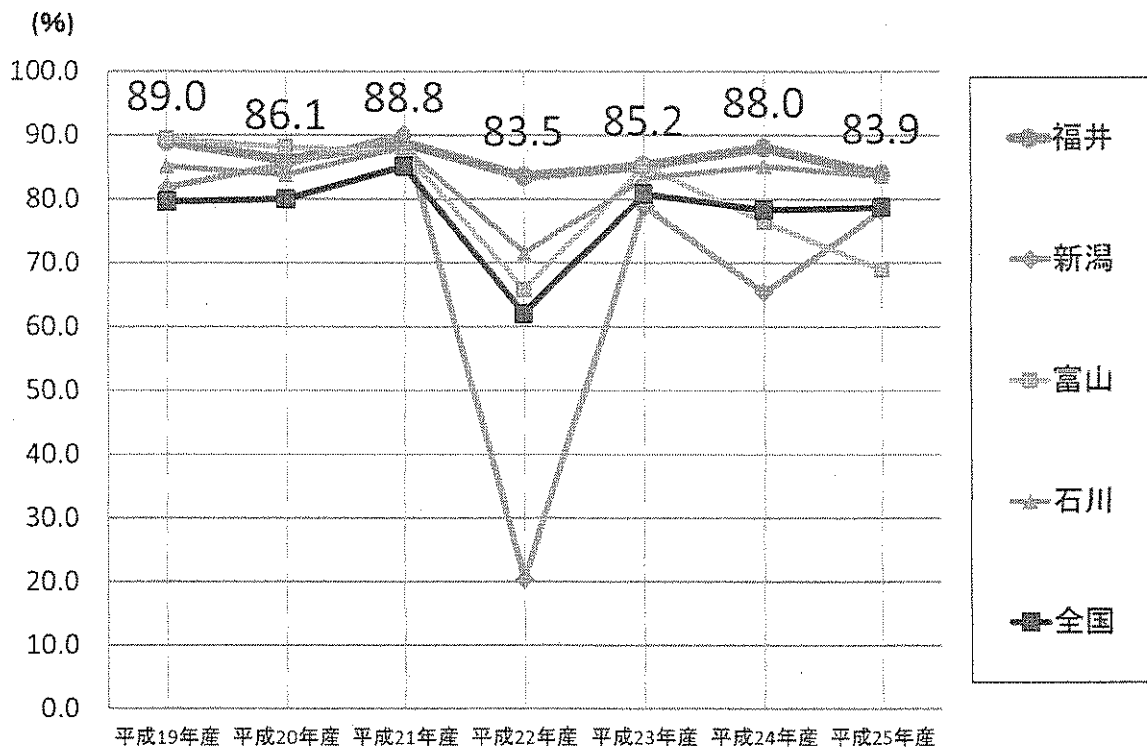
キセキ田植機



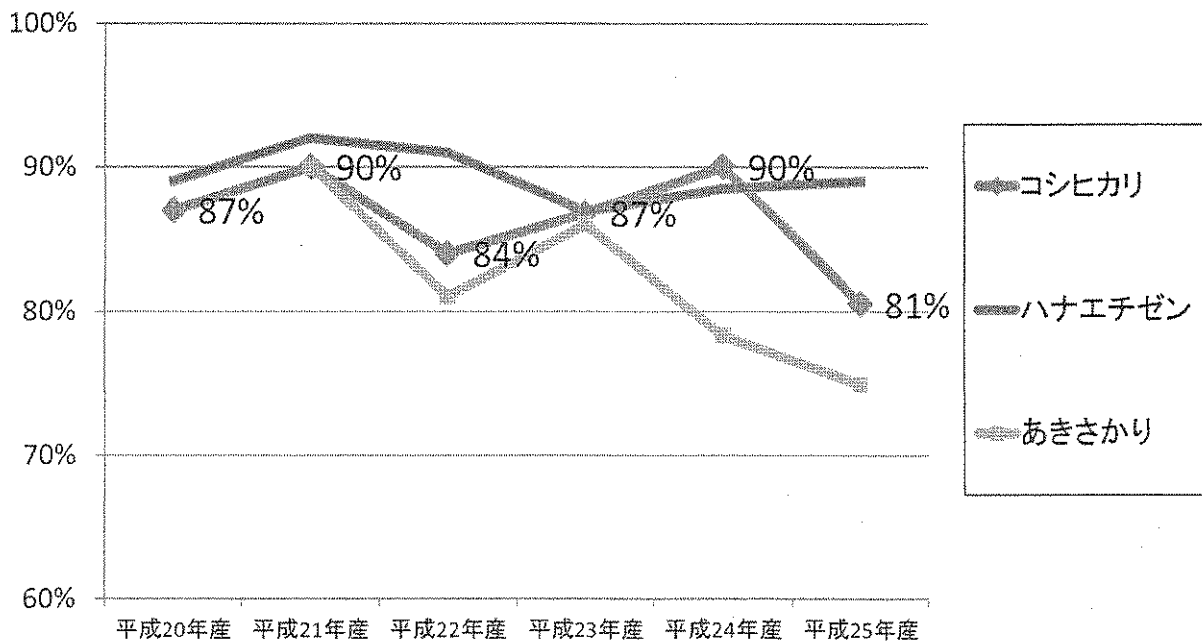
繰り出し調節ハンドルにて施肥料を目盛に合わせ。
(繰り出し調節ハンドルを一回転すると、施肥量が約1kg程度増減する)

施肥量調整金具をゆるめ、施肥量を調整目盛に合わせ金具を締め付ける。
微調整…施肥量調整金具をゆるめ微調整金具を回し、ピンの位置をずらして調整する。

水稻うるち玄米の1等比率の推移



品種別1等比率の比較



※平成25年産については、平成26年1月31日現在の実績

Ⅱ. 1. 9mm網目選別

産地間競争の現状

- 生産過剰や人口減少に伴う需要量の減少が見込まれる中、激しい産地間競争が行われている

福井米の評価

- 粒が小さい
- 胴割米、未熟粒が多い
- 食味値が低い

網目別食味値分析結果

品種名	コシヒカリ			ハナエチゼン		
	タンパク値	1.85mm網目	1.90mm網目	タンパク値	1.85mm網目	1.90mm網目
検査JA数	10			12		
検査CE数	18			22		
H21年産米	平均値	6.7	6.4	平均値	7.2	7.1
目標値達成CE数	6.5%以下	4	16	6.8%以下	1	5

良食味米	6.2%以下	0	5	6.5%以下	0	0
基準米	6.3~6.7%	11	13	6.6~7.0%	5	13
要重点指導	6.8%以上	7	0	7.1%以上	17	9

選別網目切り替えの経緯

近県の選別網目の使用状況	
福井	1.85mm
富山	共同乾燥施設は1.9mm
石川	共同乾燥施設は1.9mm ※一部1.85mm
長野	共同乾燥施設は1.9mm ※一部2.00mm
滋賀	1.9mmを奨励 ※1.9mmの使用状況は半分以下

福井米の定義（平成22年度）

- ①品種が確認できた種子により栽培した米穀
- ②登録検査機関で受検された米穀
- ③生産基準に基づき栽培され、
栽培履歴記帳が確認された米穀
- ④1.9mm以上の網で選別された米穀

網目選別切替の啓蒙

お米は全量みなさんのJAへ

網下米も

福井米の伝統が
新しくなりました

- 品種が確認できた種子により栽培した水稲
- 登熟検査機関で受検された米穀
- 生産基準に基づき栽培され、栽培履歴記録が確認された米穀

●1.9mm以上の網で選別された米穀

上記の4点の要件を満たしたお米が「福井米」です

福井米・網下米は内金+追加払い方式により、早期精算に努めます。

福井県JA・JA福井県協議会 福井県産米振興会

生産者の皆様へ

本県産米の品質は、近年、稲が小さく・割割れ・未熟が多く、食味低下が懸念されており、消費地から早急な品質改善が求められています。

現在、本県産米は1.85mmの網目で選別されていますが、東北地方や新潟・富山・石川・滋賀県などの米の生産地では1.9mmの網目が主流となっております。

このような中、土づくり・水管理を基本とした栽培管理の徹底による大粒化及び、遅稲え・遅播の推進と併行して、平成22年産米より、すべて1.9mmの網に交換し、福井米の品質向上を図りたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

尚、コシヒカリの「きつき半ばの遅期田植え」については、県下全体で取り組んでいくことから、皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

福井県JAグループ 水田産米レベルアップ委員会

ふるい目幅別重量割合

平成25年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量(子実用)及び10a当たり収量

単位 { 重量割合: %
対平均差: 単位

区分	計	ふるい目幅別重量割合					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
福井県	重量割合	0.7	1.3	1.6	2.0	12.4	82.0
	対平均差	0.0	0.1	0.0	△0.8	△3.3	4.0
嶺北	重量割合	0.7	1.3	1.6	2.0	12.2	82.2
	対平均差	0.0	0.1	0.0	△0.8	△3.7	4.4
嶺南	重量割合	0.6	1.4	1.9	1.9	13.1	81.1
	対平均差	△0.1	0.2	0.3	△0.8	△1.3	1.7

参考資料: H25北陸農政局資料 ふるい目幅別重量割合

Ⅲ. コシヒカリの区分集荷・販売への取組

- ①食味検査に基づく栽培技術の改善指導
- ②食味検査に基づいた
区分集荷・販売のための体制整備
- ③タンパク値による区分集荷・販売

食味マップの作成



土づくり(土壌改良剤施用)の現状

福井県水稻栽培における土改材の使用状況

H21

品種名	面積集計(a)			施用割合(%)
	使用	未使用	合計	
コシヒカリ	536,342	751,097	1,287,439	42
ハナエチゼン	164,942	389,510	554,452	30
イクヒカリ	30,908	78,475	109,383	28
あきさかり	1,552	3,869	5,421	29
その他	98,339	67,768	166,107	59
合計	832,083	1,290,719	2,122,802	39

H22

品種名	面積集計(a)			施用割合(%)
	使用	未使用	合計	
コシヒカリ	509,989	669,020	1,179,009	43
ハナエチゼン	222,126	419,106	641,232	35
イクヒカリ	36,856	95,948	132,804	28
あきさかり	13,403	168,167	181,570	7
その他	89,969	64,701	154,670	58
合計	872,343	1,416,942	2,289,285	38

36

土づくり資材の施用推進

ケイ酸は源
収穫 食味を上げる

ケイ酸効果 5つのポイント

1. 収穫が安定になるので、栽培に安心です。

2. 穂の発育が良く、食味・栄養(炭水化物・糖質)に効果的です。

3. 葉の緑色が濃くなるので、光合成が盛んになり、収穫量が増えます。

4. 葉の表面にケイ酸が蓄積することで、病害虫の被害を受けにくくなります。

5. 葉の表面にケイ酸が蓄積することで、病害虫の被害を受けにくくなります。

■ 土壌のケイ酸不足は収穫量低下の原因です！

測定項目	基準値	平均値
PH	6.0~6.5	6.1
CEC(meq/100g)	15以上	18.8
腐植	3.0以上	2.7
ケイ酸(mg/100g)	15以上	7.0
リン酸(mg/100g)	20以上	19.6
石灰飽和度%	50~60	37
苦土飽和度%	10~15	12
カリ飽和度%	2~5	3

福井県JAグループ

測定項目	基準値	平均値
PH	6.0~6.5	6.1
CEC(meq/100g)	15以上	18.8
腐植	3.0以上	2.7
ケイ酸(mg/100g)	15以上	7.0
リン酸(mg/100g)	20以上	19.6
石灰飽和度%	50~60	37
苦土飽和度%	10~15	12
カリ飽和度%	2~5	3

水管理・適期収穫の徹底

福井米の熟化上げ!

NGKテクノロジーズ 水管理センター

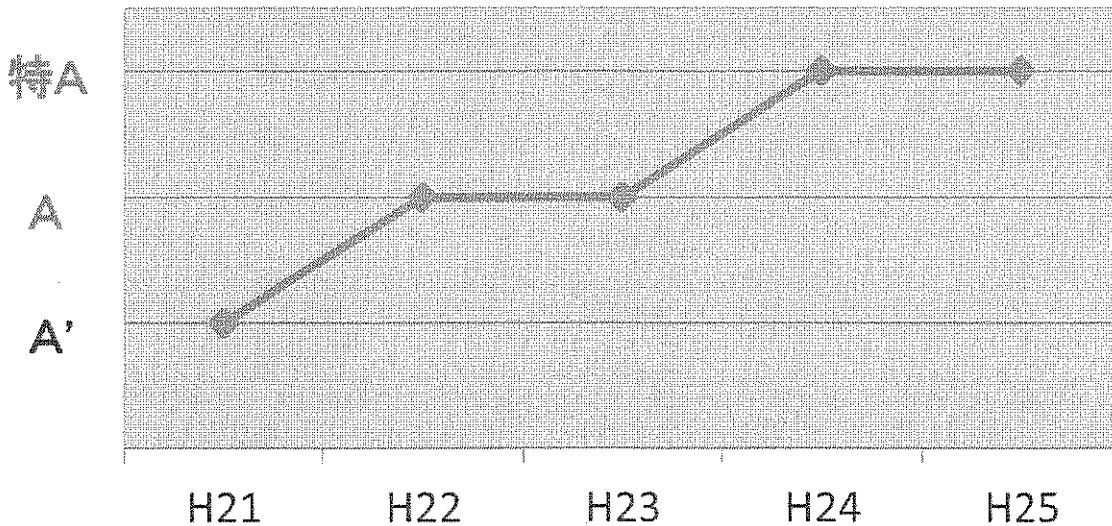
1. 登熟期間の間断通水
刈取り5~7日前まで、通水して調製米を防ごう!

2. 適期刈取
刈取り開始は、籾の黄化をよく見よう! 黄化率/水分25%以下

3. しっとり乾燥
くれくれも、高温での急激な乾燥はやめよう! 乾燥率/14.5~15%

コシヒカリの食味ランキング

H21	H22	H23	H24	H25
A'	A	A	特A	特A



福井米振興方針H25

おいしく、環境にやさしい福井米づくり

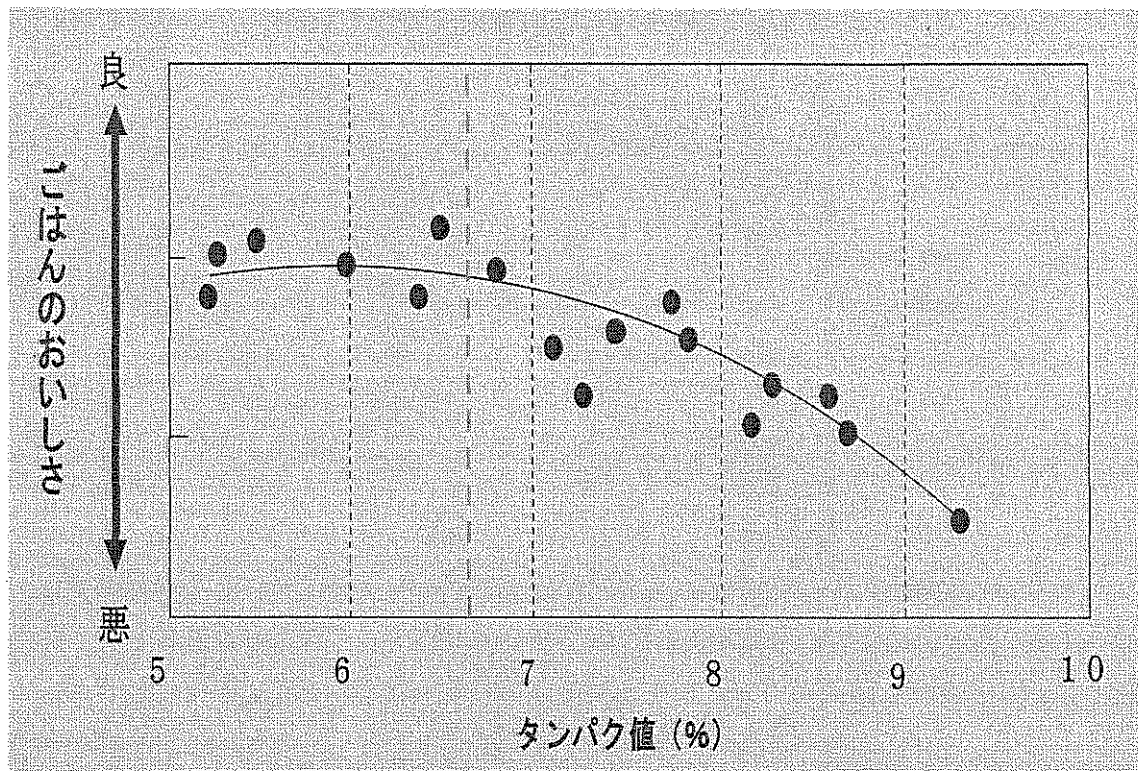
主な推進項目

- ① 「特A」評価定着のための技術指導の推進
⇒食味検査に基づくコシヒカリの区分集荷・販売
- ② 県下全域でエコファーマーを推進
- ③ 5月半ばの適期田植えと直播栽培の徹底

倉前検査、CE荷受け



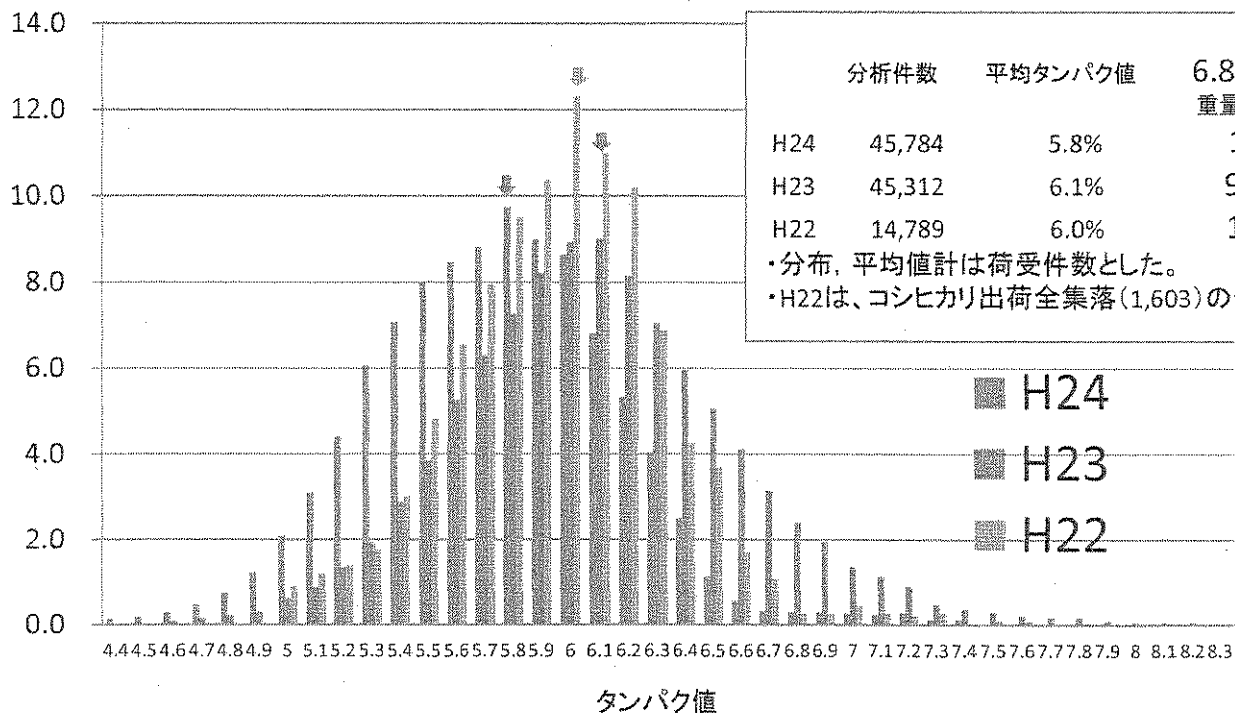
コシヒカリの区分値の検討



タンパク値の分布図

県全体のタンパク分布 コシヒカリ食味分析結果(平成22~24年産)

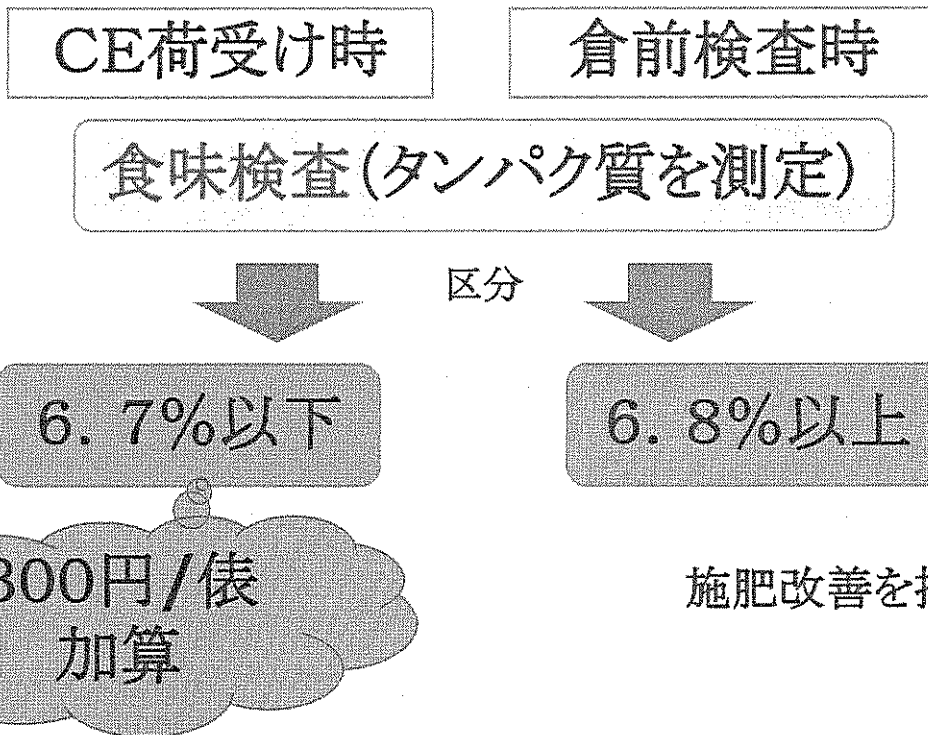
割合(%)



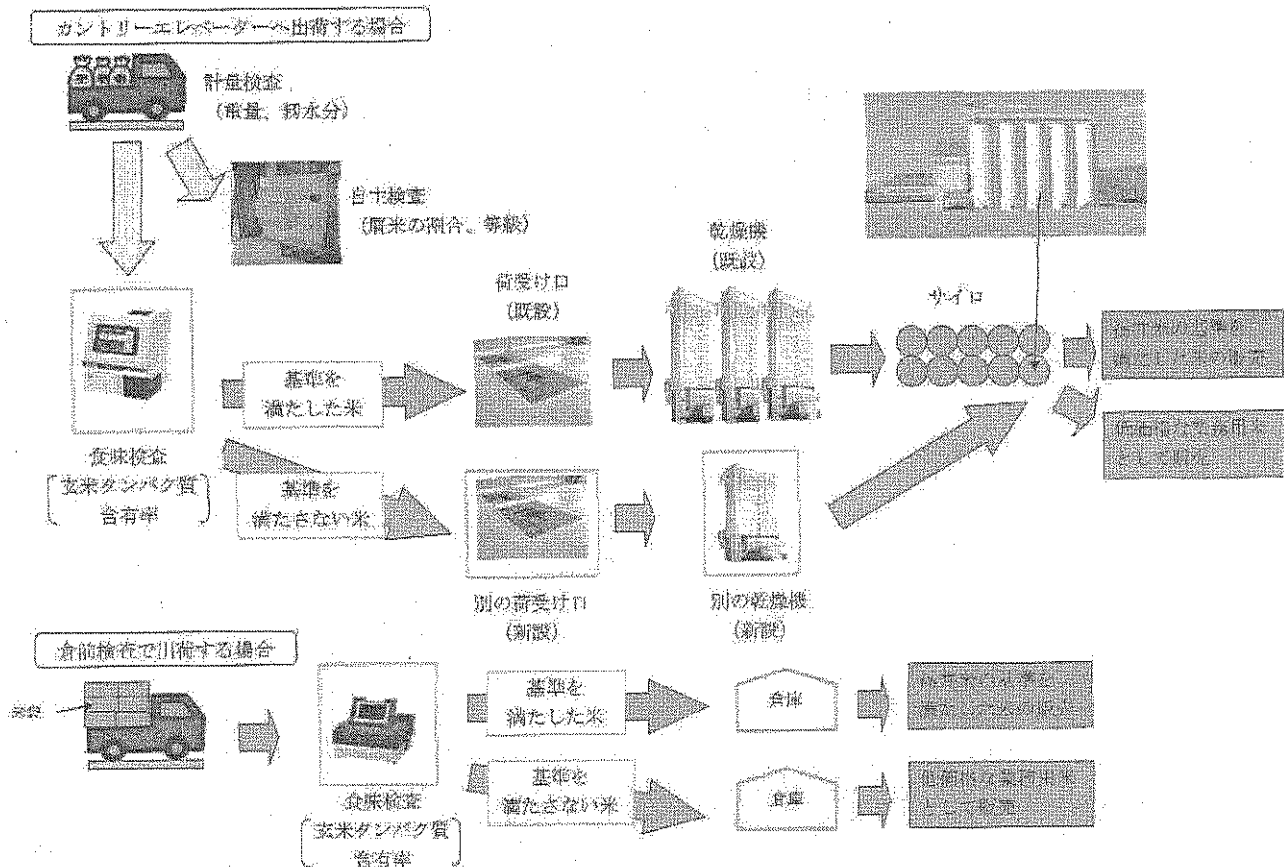
タンパク値

倉前検査集荷、CE荷受け

H25年から 全JAで実施



区分集荷の流れ



区分集荷チラシ

大切なお米を守る4つのポイント!

- コシヒカリの食味値による区分集荷の実施
タンパク値6.7以下と6.8以上で区分します
- エコファーマー栽培技術の導入
- 5月半ばの適期田植えの実施
- 1.9mmの選別網の使用

JAグループでは、生産者から消費者までの信頼関係を築くために、コシヒカリの食味値を厳しく管理し、タンパク値6.7以下と6.8以上の2区分を設定し、食味と栄養の両方を追求しています。

JAグループでは、生産者から消費者までの信頼関係を築くために、コシヒカリの食味値を厳しく管理し、タンパク値6.7以下と6.8以上の2区分を設定し、食味と栄養の両方を追求しています。

JAグループでは、生産者から消費者までの信頼関係を築くために、コシヒカリの食味値を厳しく管理し、タンパク値6.7以下と6.8以上の2区分を設定し、食味と栄養の両方を追求しています。

大切なお米をしっかりと守ります!

JAはこれから組合員の皆様の

平成25年産から
福井県産コシヒカリの
レベルアップに向け、
区分集荷・販売
を実施します。

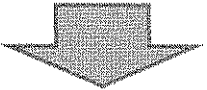
コシヒカリの食味値を厳しく管理し、タンパク値6.7以下と6.8以上の2区分を設定し、食味と栄養の両方を追求しています。

タンパク値6.7以下
を高級米として区分し、
内容にて300g単位
をします。(1粒米のみとします)

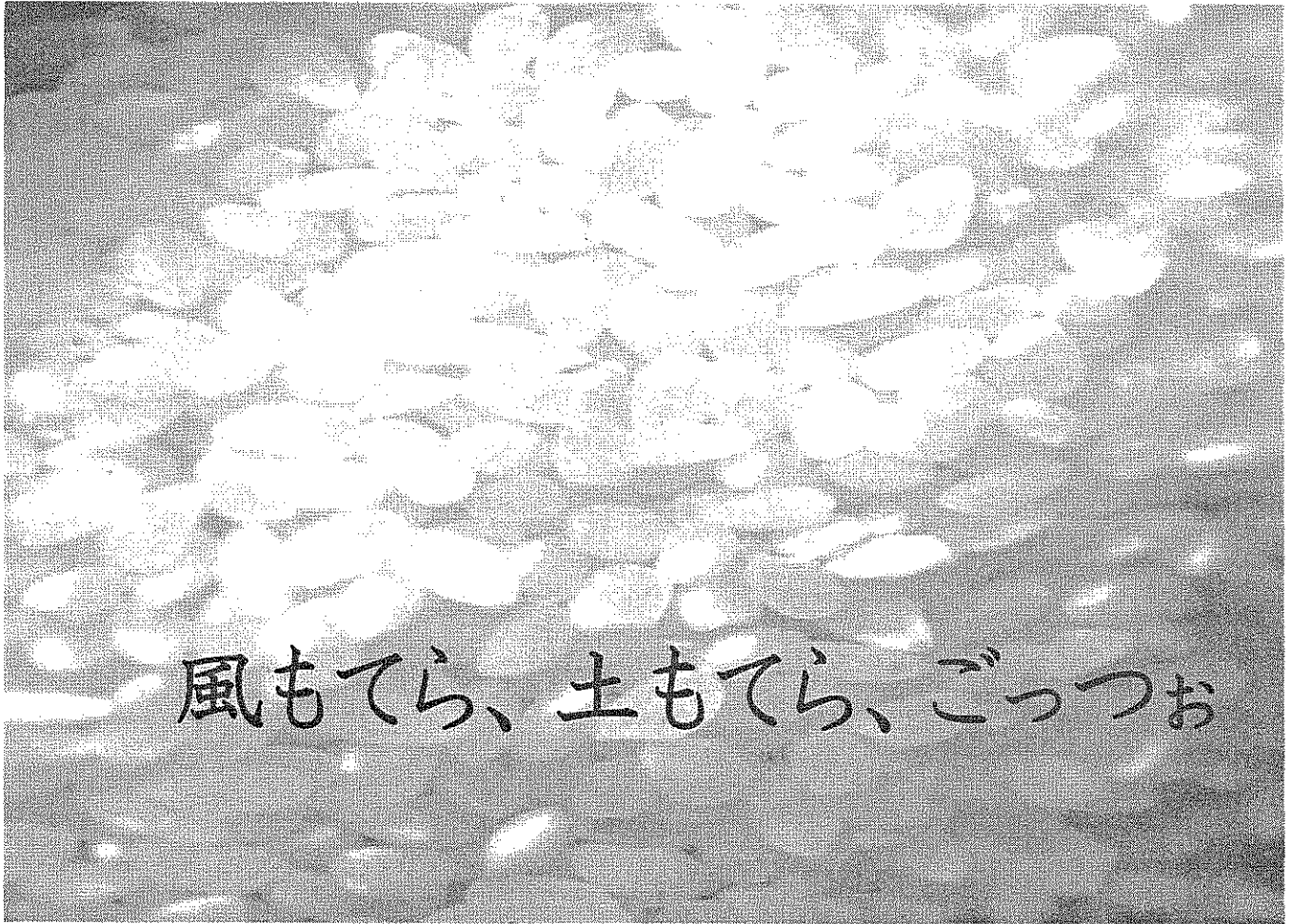
福井県JAグループ

福井県産米のブランド化

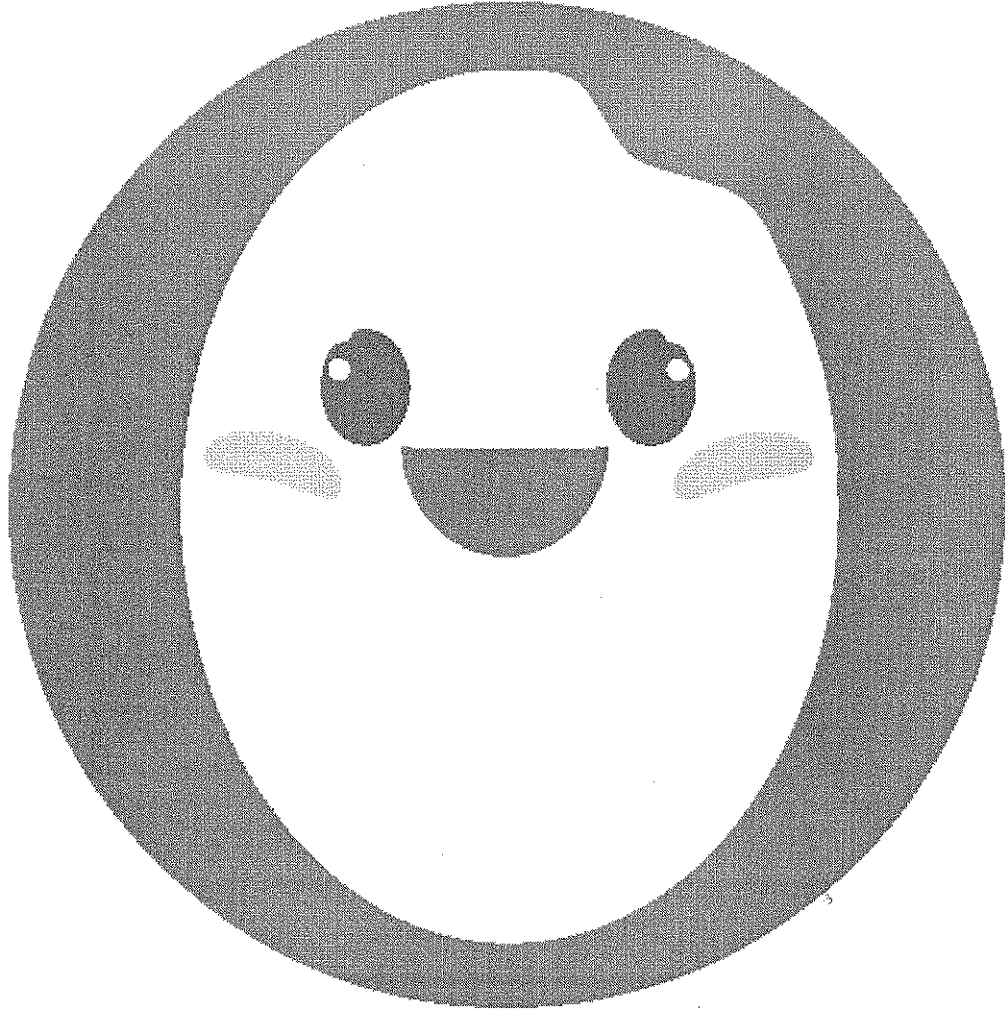
- ・福井県産米の品質・食味の向上
- ・実需者・消費者の安心・信頼の確保
- ・関係機関・生産者が一体となったPR



消費者に選ばれる福井米



風もてら、土もてら、ごっつお



「おいでまい」シンボルマーク